



防災リーダー 磯部 桂子 さん

本市では、地域からの推薦に基づき、所定の研修を受講し、防災に関する十分な知識を習得した人を「防災リーダー」として認定しています。地域の要請に応じて防災の研修や訓練などを行うことで、防災力の向上に努めています。

現在は776人の防災リーダー（男性714人、女性62人）が活動しています。今回は、長年防災リーダーとして活躍されている磯部さんにお話を伺いました。

災害への備えを「防災リーダー」に聞きました

活動を始めたきっかけは何ですか？

私は、以前より消防団員として地域で活動していました。消防団員は有事の際に現場で活動することが多いですが、もっと日ごろから地域のために、何かできることはないかと考えていました。そんな中、防災リーダーの存在を知り、防災リーダー研修を受講することになりました。災害の発生メカニズムや防災に関する知識を習得し、平成28年度に防災リーダーとして認定していただき、以来10年間活動を続けています。

地域の防災活動で、力を入れていることは何ですか？



いざという時にすぐ避難ができるよう、一人ひとりが自分に必要なものを準備し

ました。声かけなどをして、声かけなどをしてもらえらるよう、優しく声をかけるよう心がけました。

普段からどんな準備が必要ですか？

いざという時にすぐ避難ができるよう、一人ひとりが自分に必要なものを準備し

災害時、避難所などでのよいな活動をされましたか？

高齢者や小さな子どもを連れた人など、支援が必要と思われる人や、不安そうにしている人に対して、声かけなどをしてもらえらるよう、優しく声をかけるよう心がけました。

市民のみなさんへメッセージをお願いします

非常持ち出し品や非常食の準備、家具の転倒防止対策など、日ごろの準備が自分自身の身を守ることに繋がります。また、災害発生時は、家族や友人、隣人と助け合うことが重要です。普段から地域の人たちとコミュニケーションをとることを心がけ、地域で行われる防災活動や防災訓練に積極的に参加してみてください。みなさんも、今日からそれぞれができる災害への備えをしておきましょう。



水害時にはどこに避難する？

まず自宅や職場などが、浸水や土砂災害のリスクがある地域か総合防災マップで確認しましょう。リスクがなく備蓄品などが用意できる状況であれば、在宅避難が可能です。リスクがある場合は水平避難が必要です。安全な知人宅や本市の開設する避難場所などへ避難しましょう。また、土砂災害警戒区域などでなくても、土砂災害が発生する場合があります。付近に「がけ地」や「小さな沢」などがあれば注意してください。

いざという時に備えて何を準備したらいい？

非常食、飲料水、医薬品、貴重品などを防災リュックにコンパクトにまとめ、非常持ち出し品としてすぐに取り出せる場所に保管しておきましょう。また、災害による物流の断絶に備えて、最低3日分の非常備蓄品を用意しておきましょう。詳しくは総合防災マップ（65ページ）を参考に、自分に合った備えをお願いします。

水平避難とは
建物を移動して、洪水浸水想定区域外の避難所などに避難することです。同じ建物の中で、浸水しない上階に避難することを垂直避難といいます。

マイタイムラインを作成しましょう

鳥取市防災アプリの機能を使ってお住まいの地域の災害リスクや避難行動を整理し、一人ひとりの防災行動計画（マイタイムライン）を作成しておきましょう。

4月に機能を強化しました！

鳥取市防災 Emergency Information

Android 版 iOS 版

避難情報と取るべき行動を確認しておきましょう

本市は気象情報などをもとに、災害発生の危険性が高まったと判断した場合は**避難情報**を発令します。避難情報は5段階の警戒レベルのうちレベル3～5で発令しますが、必ずしも順を追って発令されるものではありません。天候の急変などにより、一度に複数段階引き上げられる場合があります。避難情報の発令前でも、身の危険を感じたら自主的に避難行動を開始しましょう。

警戒レベル	鳥取市が発令する情報	気象庁が発表する情報	状況	住民が取るべき行動
5	緊急安全確保	大雨特別警報	災害が発生または切迫	命の危険、直ちに安全確保！
警戒レベル4までに全員避難！				
4	避難指示	土砂災害警戒情報 氾濫危険情報	災害発生のおそれが高い	危険な場所から全員避難
3	高齢者等避難	大雨警報 洪水警報	災害発生のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難
2	—	大雨注意報 洪水注意報	気象状況悪化	避難場所や経路を確認
1	—	早期注意情報 (警報級の可能性)	今後気象状況悪化のおそれ	最新情報を入手し災害に備える